

子供とともに 本をひらこう 未来のページ
(「第2次大洲市子供読書推進計画」より)

図書室の先生
おすすめ

うちどく 絵本リスト

中学生版



「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、その本について話し合うことです。
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！

毎月第3日曜日は“うちどくの日”

●うちどくをはじめるなら、まずは絵本がおすすめ！●

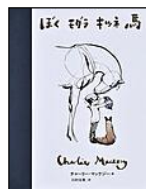
絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢によっても様々な感想を持てるので、幅広い年代が一緒に読む「うちどくの本」として最適です。そこで、市内の学校の図書室の先生に、家族で読んでほしい本を、絵本を中心におすすめしてもらいました。

オオカミ県

多和田 葉子/文 溝上 幾久子/絵
論創社 2021年 ¥2000



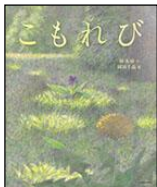
都会の白兔は何を食って生きているのか。現代社会を諷刺し、境界を超えていく、不思議さ、可笑しさ、不気味さはらむ物語を、美しく細密な銅版画で描く。多和田葉子の世界と出会うアート絵本。



ぼく モグラ キツネ 馬

チャーリー・マッケジー/著 川村 元気/訳
飛鳥新社 2021年 ¥2000

じぶんにやさしくすることが、いちばんのやさしさなんだ。やさしくされるのをまつんじゃなくて、じぶんにもやさしくなればいいのさー。子どもから大人まで、だれの心にも入り込み、力をくれる人生寓話をイラストとともに綴る。



こもれび

林 木林／文 岡田 千晶／絵
光村教育図書 2020年 ¥1300

こもれびに包まれているたんぽぽと、光が届かないくらいかげの奥でひっそりとうつむくすみれ…。こもれびをめぐり、小さな草花たちが繰り広げる群像劇。悩みながらも、希望を探し、明日を見つめて精いっぱい生きる姿を描く。

○

かいぶつのとしょかん

ふくい りえ／文・絵
大日本図書 2019年 ¥1300

本の中の住人が出たり入ったりして遊んでいる「かいぶつ図書館」。そこでは、小鳥もお魚も誰でも、好きな本が借りられて…。ユニークなかいぶつがたくさん出てくるコマ割り絵本。

○

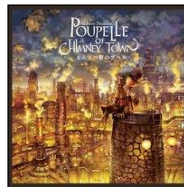


字のないはがき

向田 邦子／原作
角田 光代／文 西 加奈子／絵
小学館 2019年 ¥1500

戦争中、疎開するちいさな妹に、お父さんは「元気な日は、はがきにまるを書いてポストにいれなさい」と言って、たくさんのはがきを渡した…。妹と父のエピソードを綴った向田邦子の名エッセイを、角田光代と西加奈子が絵本化。

○



えんとつ町のプペル

にしの あきひろ／著
幻冬舎 2016年 ¥2000

信じぬくんだ。たとえひとりになっても一。えんとつだらけの町。そこに住むひとは、黒い煙にとじこめられて、青い空を知りません。えんとつそうじ屋の少年ルビッチは、ハロウィンの日にあらわれたゴミ人間のプペルと出会い…。

○

もしも地球がひとつのリンゴだったら

デビッド・J.スミス／文
スティーブ・アダムス／絵 千葉 茂樹／訳
小峰書店 2016年 ¥1500

生命の歴史、エネルギー、食べ物、銀河系…。大きなもの、広いスペース、長い時間を、わかりやすいサイズに縮めて紹介。大きすぎて把握できないことから、スケールダウンすることによって、理解しやすく描きます。

○



せんそうしない

たにかわ しゅんたろう／ぶん
えがしら みちこ／え
講談社 2015年 ¥1300

ちきゅうにいきるいきものなかで、せんそうをはじめるのは、にんげんだけ。それも、おとなだけ。詩人・谷川俊太郎とイラストレーター・江頭路子のコラボで生まれた、戦争と平和を考える本。

○

ママがおばけになっちゃった！

のぶみ/さく

講談社 2015年 ¥1200



車にぶつかっておばけになってしまったママ。家に戻ると、4歳のかんたろうが、ママに会いたいと泣いています。夜の12時過ぎ、かんたろうから見えるようになったママは、かんたろうとお話をして…。見返しに書き込み欄あり。

○



最初の質問

長田 弘/詩 いせ ひでこ/絵

講談社 2013年 ¥1500

今日、あなたは空を見上げましたか。空は遠かったですか、近かったですかー。詩人・長田弘の代表作のひとつに、画家・絵本作家のいせひでこの美しい絵をつけた絵本。繰り返される問いかけが深い思索へと誘う。

○

はじめてのてんきえほん

武田 康男/監修 てつか あけみ/絵

村田 弘子/文・デザイン

パイインターナショナル 2013年 ¥1800



雲が見えたら、しばらくじーっと眺めてみよう。少しずつ動いているのがわかるね。お天気はいつでも変わりつづけているんだ…。雲の種類と高さ、台風や竜巻が起こるしくみ、季節ごとの天気など、天気のふしぎを楽しく学ぶ絵本。

○

ひとりひとりの やさしさ

ジャクリン・ウッドソン/文

E.B.ルイス/絵 さくま ゆみこ/訳

BL出版 2013年 ¥1400



転校生のマヤはクラスになじめず、学校に來なくなった。アルバート先生は水の入った洗いおけに小石を落とし、優しさについて話し始めた。「ひとりひとりの小さな優しさが、さざなみのように世界に広がっていくのです」と…。

○



りんごかもしれない

ヨシタケ シンスケ/作

ブロンズ新社 2013年 ¥1400

テーブルの上のりんご。でも、もしかしたら、これはりんごじゃないのかもしれない。大きなサクランボの一部かも。何かのタマゴかも…。考える力があれば、世の中ははてしなく面白い。ひとつのりんごから始まる、発想えほん。

○

おおきな木

シェル・シルヴァスタイン/作

村上 春樹/訳

あすなる書房 2010年 ¥1200



いつでもそこにあるりんごの木。成長し変わっていく少年。それでも木は、少年に惜しみなく愛を与え続けた一。世界で読み継がれているロングセラー絵本を村上春樹が新訳。

○



どこでもない場所

セーラ・L・トムソン／文
ロブ・ゴンサルヴェス／絵 金原 瑞人／訳
ほるぷ出版 2010年 ¥1800

想像してごらん。スーツケースからこぼれだし、あなたを夢の世界へつれてゆく、そんな場所を一。想像力に満ちたイラストレーションで見るものを奇妙な世界へ誘い込む、不思議なだまし絵の絵本。

○

くまとやまねこ

湯本 香樹実／ぶん 酒井 駒子／え
河出書房新社 2008年 ¥1300



突然、最愛の友だちのこたまりを亡くしてしまった、くま。暗く閉め切った部屋に閉じこもっていたが、ある日やまねここと出会った。やまねこは、くまのためにバイオリンを弾いてくれて…。

○



わたしのいもうと

松谷 みよ子／文 味戸 ケイコ／絵
偕成社 1987年 ¥1200

いじめを受け、命を落としたいもうと。生きていたら、いもうとはどんな人生を歩み、何をしたかったのだろう。姉「わたし」が語るいもうとの苦しみから、いじめのつらさを考えさせられる。



わすれられないおくりもの

スーザン・バーレイ／さく え
小川 仁央／やく
評論社 1986年 ¥1200

心から大切にしている人がいなくなるのはさびしいもの。でも、いなくなっても、その思いは残る。お互いを思いあう優しい気持ちがいろいろな形であらわれて、生きることのすばらしさを感じることができる絵本。

おとなになれなかった 弟たちに…

米倉 齊加年／作
偕成社 1983年 ¥1200



「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」米倉齊加年が、自らの体験をもとに、戦争を知らない子供たちに語りかける。言葉にならない心の痛みや戦時中の厳しい状況を平易な文章と印象的な絵で描いた作品。

価格は2021年12月現在の本体価格です。

○のついた本の内容紹介は、TRCマークを使用しています。

掲載については出版社の許諾を得ています。

無断で転載することを禁じます。



2022年3月発行
大洲市立図書館